

「結婚とは」子ども時代に学ぶ

生活 調べ隊

結婚について子どものうちから考えてもらおうという取り組みが広がっている。結婚の選択は個人の自由で、しかも、子どもにとってはまた先の話のはず。どんな狙いがあるのだろうか。

(大石由佳子)

と企画の意図を話す。

最近結婚式を開かない「なし婚」も多く、式に参列した経験のない子どもも珍しくない。イベントは結婚のイメージ形成につながるという。業界側には将来の市場を盛り上げたいという意向もあるだろう。一般社団法人「エンジェルウェディング協会」(東京)も「花嫁姿を直接見てもらいたい」と、ドレス姿のモデルが街を歩くイベントを年数回開催している。

ただ、結婚を取り巻く状況は複雑だ。内閣府の2014年度の調査によると、20、30代が未婚である理由として「適当な相手に巡り合わない」「結婚後の生活

資金が足りない」といった理由が上位にあがる。

こうした現実を踏まえ、高校生向けに具体的な情報を伝える取り組みもある。

山形県子育て支援課の「仕事、結婚、出産、学生のためのライフデザイン講座」はその一つだ。少子化対策の事業としても位置づけられている。

講師で、県内の式場運営会社社員の武田靖子さんが、データを示しながら説明する。「男性に年収600万円以上を求めると、20人に1人しかいない」「山形市で共働きすると、月10万円ほどの赤字になる」「男女ともに、年齢を重ねると妊娠の確率は低下していく」など。

その上で、生徒たちに将来どんな生活がしたいか尋ねる。「自分が描く未来の実現に何が必要か、早くか

結婚式場に小中学生を招き、ウェディングプランナーが結婚の意味を話したり模擬挙式を開いたりする。8月に東京都内で開かれたイベントでは、花嫁役、花婿役の男女が本番さながらに愛を誓う様子を子どもたちが見守った。小学6年の男児(11)は「いつか結婚したいという気持ちが大きくなった」と話した。



婚育イベントの模擬挙式。子どもたちは参列者として式の雰囲気を感じた(東京都港区)

くらし 家庭

「婚育」イベントで将来イメージ

◆20、30代の結婚しない理由(複数回答)

適当な相手に巡り合わない	54%
自由や気楽さを失いたくない	27%
結婚後の生活資金が足りない	27%
まだ若すぎる	24%
趣味や娯楽を楽しみたい	24%
結婚資金が足りない	19%

(内閣府の2014年度 結婚・家族形成に関する意識調査)

させ、自分なりの考えを持てるようにしてほしい」と話す。

ニッセイ基礎研究所研究員の天野馨南子さんは「年齢を楽観視して、成り行き任せにさせてはいけないという危機感が強い」と話す。

具体的な情報を知り、考えることが大切」と話す。親世代の役割を強調するのはNPO法人「日本結婚教育カウンセラー協会」(奈良県)の棚橋美枝子さん。共働き率の増加など状況は変化しており、親の経験や価値観の通りにはいかなない。「結婚の良さも大変さも含め多面的な情報に触れ

国立社会保障・人口問題研究所の調査では、18〜24歳が独身でいる理由は「まだ若すぎる」が多い。これが25〜34歳になると「適当な相手に巡り合わない」に変化する。のんびり構えていて、後で焦る人も少なくない。「選択は本人次第だが、早くから正しい知識を基にライフプランを作ることが大切。その意識が子ども向けの啓発につながっているのでは」と話す。

右ページに関連記事▶▶▶